



イザヤ四十二章5、6節

天を造り出し、
これを引き延べ、
地とその産物を押し広め、
その上の民に息を与え、
この上を歩む者に
霊を授けた創造主は
こう仰せられる。
わたし、主は、
義をもってあなたを召し、
あなたの手を握り、
あなたを見守り、
あなたを民の契約とし、
国々の光とする。



生命の起源

ジェネシスジャパン会長 宇佐神 実

写真／様々なアメーバ。鞭毛や繊毛をもたず仮足で運動する原生生物や細胞。

もっともらしい話

1979年に流行ったドラマ「3年B組金八先生」で、武田鉄矢氏扮する金八先生が「君たちいいですか〜。人という字はねえ、ひとりの「人」がもうひとりの「人」を支えている字です。つまり、人と人が支え合ってるから人なんです。」と人という字の成り立ちについて語りました。これは名言として広く知れ渡り、当時多くの人はこのもっともらしい話に納得しました。しかし、最も古い漢字の甲骨文字を見ると人という字の字形は図1のようで支え合ってはいません。漢字学者の多くは甲骨文字の「人」は人の側面を象った文字だと推測しています。このこと

を知った当の武田鉄矢氏もNHKの番組「あさイチ」で「人という字は支え合っておりません」と断言しました。(2014年11月21日放送)これを聞いた人々からは「言って欲しくなかった」「聞きたくなかった」などの声が上がりました。人は一度正しいと信じてしまうと、誤りであることがわかっていても受け入れたくない気持ちをもつものです。しかし、もっともらしい偽りを信じ続けるよりも、真実を受け入れることの方が遥かに大切ではないでしょうか。

同様に、日本では、進化論の推測が疑問の余地のない明白な事実であるかのように教えられます。このもっともらしく聞こえる進化

論の話には、甲骨文字の「人」の字形のような真偽を確かめる証拠がありません。また、中学・高校、そして大学でも進化論と矛盾する事実や反証が教えられることはほとんどありません。

ダーウィンが『種の起源』を発表した19世紀半ばは、今日のように科学が発展していませんでした。そしてダーウィンをはじめ進化論を信じた学者たちは、やがて調査が進めば中間型化石など進化の証拠がたくさん見つかるに違いないと希望的観測を抱いていたのです。進化論が公教育で教えられ、テレビなどでも事



図1／甲骨文字の人

実かのように語られるようになると、多くの人は進化論は純粋に科学的で、宗教や思想の影響を受けていない事実だと思い込むようになりました。しかしそれは本当でしょうか。

知的設計論

1985年に生化学者マイケル・デントンが「進化論：危機にある理論」（邦訳「反進化論：ダーウィンの自然観は間違っている」¹）を著し、古生物学、化石、相同、分子生物学、遺伝、生化学などの研究成果は、自然界の生物がデザイン（設計）された証拠に満ちていると述べました。

この書籍がきっかけとなり、それに賛同する学者たちは、自然界がデザインされたものであるという立場から、インテリジェント・デザイン（知的設計）論（以下ID論）を提唱しました。これは、自然界が自然に出現したのではなく、知的存在によってデザイン（設計）されたという立場です。

科学雑誌サイエンスを発行しているアメリカ科学振興協会は、1993年に米国ボストンで開催した年次会議のシンポジウム「新しい反進化主義」で、ID論に対する対応が取り上げられました。その中で発題者の一人、科学哲学者のマイケル・ルースはこう述べています。

「進化論は宗教と同様で、あるレベルで、経験的に証明できない特定の推測または形而上学的仮定をしなければならぬ。これは私たちにとって周知のことだと思うし、今はこれらの事実に対してさらに敏感にならなければならないと思う。創造論への対処同様、進化論への対処も、これらの事実を否定するのではなく認め、そこか



写真／ダーウィンの時代、一九世紀のロンドン市街

ら出発してどこへ向かうのかを見極めることではないだろうか。²

彼は多くの進化論者が周知けれども、公言してこなかった事実を認めるべきだと述べました。彼の言う「経験的に証明できない特定の推測または形而上学的仮定」には、進化論が前提としている無神論・唯物論・自然主義などが含まれるでしょう。無神論では、この世界を造った存在はいないとの推測に立っていますが、誰もそれを証明できません。唯物論では、霊は存在せず存在するのは物質のみだと推測しますが、科学で霊の存在を証明できないからといって霊は存在しないとは言えません。自然主義では、この世界がすべて自然に出現したと主張されますが、それを観察した人はおらず、造り出されることもありません。

多くの人は進化論によってこれらのことが証明されたと考えていますが、実際にはその逆で、それらに科学の装いをまとった理論が進化論なのです。ですから進化論が出す答えは自動的に無神論的、唯物論的、自然主義的になります。

マイケル・ルースは、進化論がこうした証明できない思想を前提に論じられているという事実を否定するのではなく認めるべきだと主張しているのです。

進化論が純粋に科学的だと信じている人々にとって、この事実がわかっている進化論者のことばは受け入れがたいことかもしれません。しかしその事実を認め、受け入れて考え始めてこそ真実を見極めることができるのではないのでしょうか。

ID論を提唱する学者たちは、自然界がデザイン（設計）に満ちていることを認めるため、その背後に知的設計者の存在を想定します。そのため、無神論者、唯物論者、自然主義者からは受け入れられません。また進化論は純粋に科学的だと信じ込んでいる人々からは、ID論は知的設計者を仮定するから非科学的だと非難されます。しかしマイケル・ルースが語ったように前提があるという意味で進化論も創造論と同列だということを、まず学者たちが公に認める必要があります。さもないとこれまで同様、進化論を教えられた人々は盲目的に進化論は純粋に科学に基づいていると信じ続けてしまうでしょう。

合成有機化学は語る

ダーウィンは、最初にアメーバのような最も単純な単細胞生物が自然に出現し、そこから長い年月

をかけて徐々に多細胞生物へ、魚類へ、両生類へ、爬虫類へ、鳥類や哺乳類へ、そして最後にサルのようなものから人間へと進化したと推測しました。これは単純でわかりやすい話だったため、無神論者や唯物論者たちをはじめ人々に受け入れられて行きました。

またマルクス主義下のソ連では、弁証法的唯物論の影響を受けてオパーリンが物質から生命が出現するとする化学進化説を1920年代に発表しました。この化学進化説では、まず宇宙で最初に生成したのが水素で、最初はヘリウム、炭素、酸素、窒素などの軽い元素が徐々に出現し、その後金属元素などの重い元素が出現していったと考えます。次にこれらの元素がメタン・アンモニアなどの単純な有機物を生成し、さらにこれらの有機物から生命の構成単位として欠かせないアミノ酸、単糖類、核酸塩基などの有機化合物が生成され、これらを元にタンパク質、核酸、多糖類などが生成されていったと考えました。そしてそれらの物質を覆う膜によって仕切られてアメーバのような最初の生命が出現していったと考えました。オパーリンはこの原始的な膜をコアセルベートと名付けました。コアセルベートは実際にアメーバのように集合や分離を繰り返すため当時の科学では生命の誕生までもう一歩だと考えられたことでしょう。このオパーリンの説は間違いであることがわかった今でも教科書で教えられています。

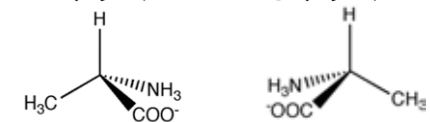
1953年にユリーとミラーは、オパーリンの化学進化説を検証するための実験を行い、進化論で想定される原子大気（水・水素・メタン・アンモニア）をガラスチュー

ブの中に入れ、雷に見立てて6万ボルトの火花放電を行い、その結果いくつかのアミノ酸が発見されました。進化論を信じる科学者たちは、いよいよ活気付けて生命を誕生させようと努力を積み重ねてきました。

この実験から70年近くが過ぎ、その間に科学は目覚ましく発展しました。ダーウィンやオパーリンの頃には非常に単純に見えた細胞も、実際には非常に複雑で多種多様の機能をもっていることがわかってきました。実験に必要な機器は日進月歩で、コンピュータ技術の発達によって科学はさらに躍進し、様々な生物の遺伝情報であるゲノム配列さえ特定されています。

では、これらの科学力を駆使して生命を誕生させることにどれだけ化学は近づけたのでしょうか。実のところ、ユリー・ミラーの実験からほとんど進展していません。科学が発達し生物の理解が深まれば深まるほど、自然に生命が出現するのは不可能であることがわかってきています。ユリー・ミラーの実験で出現したアミノ酸は、同じ化合物でもL型とD型の光学異性体がありました。これは、左右の足が対称的な形をしていても左足の靴を右足で履くことができないようにL型とD型は同一ではなく異なる性質を示します。しかし生体に存在するアミノ酸はほぼL型で、それら個々の生物に必要なアミノ酸は自然にはなく、生体内の酵素反応で作られていきます。もしL型とD型が混合するならば、生命が破壊されてしまいます。ですから、自然にL型だけからなる物質が偶然に選ばれて膜の中に入る可能性はあり得なく

図2 アミノ酸のアラニンの光学異性体
L-アラニン D-アラニン



らい低いのです。

化学進化説では、長い時間をかければ複雑な有機化合物が次々に出来ていくと考えました。しかし合成有機化学者のジェームズ・ツアーは「時間は生命進化の敵だ」³と語ります。それは化学者たちが一連の反応を経て生体に必要な有機化合物を作ったとしても、それを取り出さずに放置しておけば自然に分解してしまい、元の木阿弥になるからです。ミラーの実験で出現したアミノ酸も放置しておけば分解してしまうのです。

アミノ酸があれば生命が出現できると結論づけるのは気が早過ぎます。生命に必須のプロテインは多くのアミノ酸が結合して出来ていますが、これは生体内で様々な酵素が働くことで合成されます。しかもその酵素もアミノ酸とプロテインから構成されています。すなわち生命が存在していなければ、酵素は存在せず、プロテインを合成することは不可能です。化学進化説では、生命が出現する前の原始有機スープの中にすでに核酸（塩基と糖とリン酸からなる生体高分子であるDNAやRNA）が存在していたことを想定しています。しかし核酸は生体内で数百もの酵素反応が適切な順序で連続して行われることで出現することがわかっています。しかも核酸には個々の生物のための独特で詳細な遺伝情報が付与されています。

化学進化説では、生命が存在する前にアミノ酸、炭水化物、脂質、適切な秩序と遺伝情報を持つ核酸が自然界に存在していたと考えます。ジェームズ・ツアーは、修士

号または博士号を授与された合成有機化学者たちに「もし、細胞が自然に出現できるなら、その証拠を見せてほしい」⁴と公開質問をしています。彼は「普遍的な物理法則と化学の元素周期表に基づく、アミノ酸、ヌクレオチド、糖類、脂質から成る生命が存在するのは異常であって、宇宙のどこにも生命は存在すべきではない」⁴と述べています。そして合成有機化学の専門家であれば宇宙のどこであっても自然に生命が出現しないこと知っているはずで、それに異を唱えるなら実証してみせるようにと迫っているのです。³

ダーウィンが提唱した生物進化も、オパーリンが提唱した化学進化も単純化した話としては、一見もっともらしくわかりやすい話です。しかし科学技術が発達し、生命の詳細がわかってきた現在は、

生命を自然に出現させることは不可能だとわかっているのです。事実、宇宙の天体のどこにも生命が存在する証拠が一つも発見されていません。

人は創意工夫をし、技術の粋を集めてスマートホンやリニアモーターカーなどを造っています。時間さえあればそれらが自然に偶然にできると信じる人は誰もいないでしょう。そこにはそれぞれに特化したデザイン(知的設計)が存在しているからです。

ダーウィンやオパーリンの時代に単純だと思われた生物細胞は、今日の科学力をもってしても一部しか解明できないほど複雑で人知を超えるデザインで満ちています。聖書は全知全能の創造主がこれらを造ったことを証言しているのです。

引用文献・参考文献

1. Denton, M. "Evolution: A Theory in Crisis." Burnett Books, 1985.
邦訳「反進化論：ダーウィンの自然観は間違っている」どうぶつ社 1988年
2. Ruse, M. At the symposium "The New Antievolutionism", 1993 Annual Meeting of the American Association for the Advancement of Science, February 13, 1993. <<http://www.leaderu.com/orgs/arn/orpages/or151/mr93tran.htm>> 2020年12月1日現在
3. Tour, J. M., "The Origin of Life Has Not Been Explained" Discovery Science, 2019年7月15日 <https://www.youtube.com/watch?v=r4sP1E1Jd_Y>2020年12月1日現在
4. Tour, J. M. "An Open Letter to My Colleagues" <<https://inference-review.com/article/an-open-letter-to-my-colleagues>> 2020.12月1日現在

お祈りください

- ・コロナウイルスの流行のため対外的な講演活動がほぼ停止しています。講演活動の早期再開のために。
- ・養成講座を通して、創造を語る人が起こされるように。
- ・アジア圏での創造を伝える働きが前進する様に

クリスマス献金のお願い

国内外に創造のみわざを伝えるため、ぜひご支援ください。

ジェネシスジャパン

ゆうびん振替 00350-7-3364

ゆうちょ銀行 10650-52405611

イベント案内

■創造を伝える働き人養成講座

*2021/02/27-28 @高知聖書教会

手話による講演者養成

*2020/03/01-03 @足摺岬

一般講演者

詳細はお問い合わせください

■第四回全アジア創造カンファレンス台湾大会

2023年まで延期の予定

(台湾政府による外国人入国制限決定のため)

お問い合わせ・セミナーのご依頼は、
ジェネシスジャパンまで

【募集要項】

- ・聖書の言葉が創造主の言葉だと信じる方。
- ・御子イエス・キリストを救い主と信じる方。
- ・創造を信じることの大切さを学び、伝えたいと願う方。

創造を伝える働き人養成講座

講座の目的と概要

- *創造主のみわざのすばらしさに感動し、その感動を伝える働き人が起こされる
 - *創造論の講演に加え、創造論の背景となる知識や考え方を少人数で学ぶ
 - *創造を伝えるのに使える資料の提供
 - *修了証授与(全日程参加者)
 - *創造論を用いての個人伝道、CSや教会でのメッセージ、講演ができるように協力
- 2泊3日5食・定員12名・参加費3万円

講座開催予定

高知 2021/02/27-28 (手話講師養成講座)

足摺岬 2021/03/01-03

詳細はジェネシスジャパンへお問い合わせください